

当院における手術時の麻酔について

局所麻酔

施術を行う部位に直接注射針を挿して麻酔薬を注入し、痛みをなくす麻酔です。

麻酔は速やかに効き始めます。

(複数回手術を受けている場合や、組織が硬い場合は麻酔が効きづらい場合があります。)
局所麻酔は手術のトータル時間を抑えることができ、術後ご自身で歩いて帰ることができるなどお身体への負担も少ないのが特長です。

※注射針を挿すタイミングで一番お痛みがありますので、お痛みに弱い方はさらに麻酔クリームを追加し、約30分ほど塗布したのちに局所麻酔の注射を行うことが可能です。

笑気麻酔（笑気吸入鎮静法）

笑気麻酔（笑気吸入鎮静法）とは、笑気ガスをチューブで鼻から吸入して鎮静状態を作る方法です。意識がなくなったり眠ってしまうことはありません。痛みや恐怖を完全になくすことはできません。

麻酔の効き方は患者様により様々ですが、気持ちよく酔ったようなフワフワした感じや、ポカポカと温かくなったような感じになります。

後述のリラックス麻酔（静脈内鎮静法）と比較すると簡便な方法であり、効き目が弱い分、回復時間も10分～15分と短いというメリットがあります。

リラックス麻酔（静脈内鎮静法）

静脈内に鎮痛剤・鎮静剤などが含まれる麻酔薬を注入することで、意識を完全になくすことなく、不安や恐怖心、緊張のないリラックスした眠った状態で行う麻酔です。

稀に、治療中に目が覚めてしまう場合がありますが、静脈内鎮静法には健忘作用があり、治療中のことを覚えていられる方はほとんどいらっしゃいません。

よく全身麻酔と比較・混同されることの多い静脈麻酔ですが、全身麻酔との大きな違いは”自発呼吸の有無”があげられます。

全身麻酔は人工呼吸器を挿管することにより呼吸をしている状態ですが、静脈麻酔では呼吸は止めないため自発呼吸をしていることに加え、ラリンゲルマスクで気道の確保を行いますのでより安全にお受けいただけます。

	全身麻酔	静脈内鎮静法
意識	なくなる	完全にはなくならない
自発呼吸	できない	できる
入院	必要	不要
回復時間	時間がかかる	比較的早く、帰宅まで数時間程度

麻酔時における重視したいポイント

リラックス麻酔等を行う手術のケースでは、施術に携わる医師や看護師は、患者様の呼吸状態の変化に即座に対応できるよう、呼吸管理をしながら施術を遂行しなければなりません。当院では複数名の医師・医療スタッフがチームとなり連携を図りながら万全な状態で施術のサポートを行います。

安全な手術を行うために

私達は全身状態を正確に把握し、合併症のリスクを見極め評価する必要があります。特に肥満の方や高血圧、糖尿病などの既往症がある場合は注意が必要です。術前のカウンセリングでは既往・施術歴や服用中の薬、アレルギーをお伺いし、適切な麻酔投与を行うために身長・体重等のパーソナルなご内容を詳細にお伺いいたします。手術決定の際には複数の書類にご記入いただき、説明のためにお時間を頂戴しております。また、おおよそ手術日の一週間前までに術前採血を行います。

また、術中は使用する薬剤などの影響により患者様の体調に変化をきたしやすい状態となり、その変化を知るために血圧・脈拍・血中酸素飽和度（SpO₂・サチュレーション）の測定を行っています。呼吸状態を測定するためとても大切な項目です。この血中酸素飽和度は爪に光を当てセンサーで測定を行うため、マニキュアやジェルネイルなどをしていると測定がうまくできない場合がありますので術前はネイルや付け爪の類は外していただきます。全ては安全な手術を行うために必要となりますので、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

静脈内鎮静法で使用される薬剤

静脈内鎮静法で投与される薬剤は、クリニックや担当医師、また治療内容等によっても異なります。投与する量はお一人おひとりに合わせて調節する必要があります。

当院では主に“プロポフォール”、“セボフルラン”といった薬剤を使用いたします。